

「おかげさまで」

記憶に新しいサッカーワールドカップ・カタール大会での日本代表の活躍。ドイツやスペインという強豪国に勝ちベスト16に入ったことは、今年の明るいニュースの中で最も際立っているだろう。昨日、日本代表の森保監督と、吉田主将や選手たちが、首相官邸を訪れ岸田首相を表敬したニュースが流れた。首相は「(日本代表の戦いは)世界中をびっくりさせた。間違いなく日本の多くのファンに勇気と元気をいただいた。本当に感謝の気持ちでいっぱいです」と、激闘を続けたメンバーに感謝の意を示した。それに対して、森保監督は「日本の皆さんのエールのおかげで、勇気をもって戦うことができた。選手たちも最後まで粘り強く戦ってくれた。応援ありがとうございました」などと応じたという。

さて、ここで言う「おかげ」とは何か。広辞苑によると、「御蔭」は「神仏のたすけ、加護。また、人から受けた恩恵・力ぞえ」とある。これに「さま」を付けると、相手の親切などに対して感謝の意を表する挨拶語となる。「蔭」と言えば、物の後ろの暗い、または隠れた所なのだから、表に立っている人を後ろで支える人とも解釈できる。相手の協力や親切、理解に直接的に感謝するときにも使うこともあるし、相手を含めた世間に対して「いろんなものに助けられて」という間接的に感謝の気持ちをこめて表現する時にも使われる。どちらかというところ「おかげで」は文中に使われ、「おかげさまで」は文頭に使われることが多い。

人はいろいろな「おかげ」で生活ができています。たとえば、ある試験で合格したとする。それまでの、その人の努力は讃えられるだろうが、合格に至るまでにいろいろな人が関わりをもってくれている。勉強や技術を教えてくれた人はもちろん、学習する環境を提供してくれた人がいてくれたからこそ、合格できたのではないか。家族の「おかげ」、関わっているいろいろな人たちの「おかげ」があって今の生活ができる。何かポジティブな体験があったときに、自分の努力はもちろんだが、「おかげさまで」という感謝の気持ちをつねにもちたい。そのような謙虚な姿勢は、努力を一層輝かせることになるのだろう。

12月9日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 前回と同じ問題です。数字を各位に分解して、二乗します。これを繰り返します。たとえば最初が「3」のとき $3 \rightarrow 9 \rightarrow 81 \rightarrow 65 \rightarrow 61 \rightarrow 37 \rightarrow \dots$ となります。それでは、最初を「7」としたとき、どうなりますか。